

コラム 惑星直列

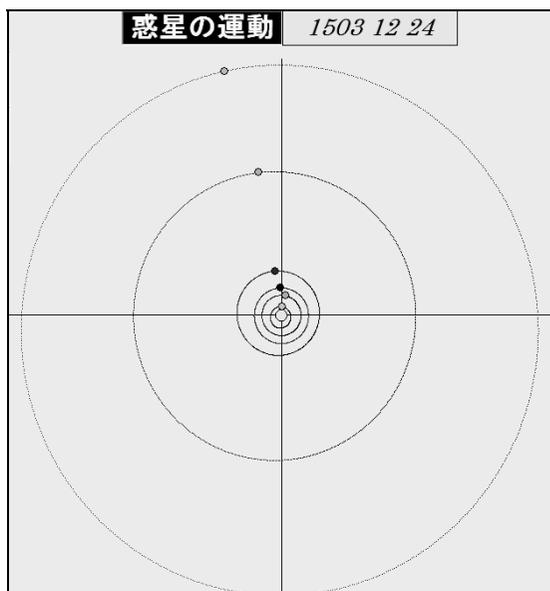
編集委員長 作花一志

惑星直列という言葉は本来の天文学用語ではなく、全惑星がほぼ直線状に並ぶ状態というだけで、はっきりとした定義はありません。しかし 1970 年代後半から一般に使われるようになり、インターネットでググれば多数のサイトが検出されます。惑星直列は何年何月何日に起こるとか、その周期は何年とか、どんな災害が起こるとか・・・

この場合、地球から見て外惑星（火星木星土星・・・）は集合して見えます。そしてその反対側に内惑星（水星金星）も集合していますが、太陽と同じ方向なのでほとんど見ることはできません。外惑星は衝、内惑星は内合として集合するわけです。では実際に惑星が「水金地火木・・・」の順に並ぶことはどのくらいの頻度で起こるのでしょうか？今までいつ起こったのでしょうか？シミュレーションソフトを起動させて BC3000 年から AD3000 年までの 6000 年間で調べてみると、意外なことに惑星がこの順に直線状に並ぶことは非常に稀なことがわかります。望遠鏡で発見された天王星以遠を除いて、水星から土星までの 6 惑星が最も直線状に並ぶのは 1504 年の年初前後に起こっています。下図は 6 惑星が全体としてよくまとまる 1503 年 12 月 24 日（グレゴリオ暦）の惑星配置で、中央は太陽、内側から水星・金星・地球・火星・木星・土星の軌道です。金星がやや外れているのが気になるかもしれませんが、これが 6000 年間で最良の日なのです。火星・木星・土星はふたご座のカストルのすぐ側、真夜中にはほぼ天頂に見えます。太陽と水星はいて座に、そして金星はその東隣のやぎ座にて、日没後 1 時間くらいは宵の明星として見えたでしょう。

BC2747 年 8 月中旬にもこのような惑星配置がありました。火星木星土星は深夜うお座に、水星金星太陽はスピカの近くにいました。BC266 年 11 月末、BC2230 年 1 月中旬にも起っていますが上記 2 件に比べると相互の位置はややずれています。惑星直列といえる現象は 6000 年間に 4 回しか起こっていません。

西ヨーロッパでは惑星直列は凶兆と信じられ、20 世紀後半になってからも恐怖の予言がなされました。記憶に新しいのは 1999 年 7 月でしたね。幸運にも大予言は外れ、天体の落下も大地震も大津波も起こりませんでした。今 2012 年 12 月 21 日にこの世は終わるとかいう怪予言が出回っていますが「そんなアホな」と一蹴せず、キチンと説明すべきでしょう。



<http://www.kcg.ac.jp/kcg/sakka/kaigou/plasem.htm>
<http://astro.ysc.go.jp/hairetsu.html>